

2020 年日本建築学会大賞

選 考 経 過

日本建築学会大賞は本会の目的に照らし、建築に関する学術・技術・芸術の発展向上に長年の業績を通じて特に著しく貢献された本会個人会員を対象として賞を贈呈している。また、その候補については一般公募ではなく本会内の特定機関、すなわち9支部ならびに15の常置調査研究委員会の推薦に限っている。候補の推薦に際しては、大賞候補功績理由書と大賞功績概要を添付していただくこととしている。

今年の候補は、2020年1月20日の推薦期限までに、4支部、11常置調査研究委員会から9候補の推薦があった。3月3日に大賞選考委員会を開催し、選考方法、表彰業績数などを確認したうえで、各候補の大賞候補功績理由書と大賞功績概要にもとづき慎重に選考を進めた。いずれの業績も功績理由書どおり優れた業績であった。

その結果、全会一致で本年は基準の3件に対し、「鉄筋コンクリート造建物の性能に基づく耐震設計法の国内外の発展に対する貢献」により名誉会員 小谷俊介君、「都市史研究・東洋建築史研究ならびに地域文化財の保存活用に対する多大な貢献」により名誉会員 西川幸治君、「住宅における健康・快適性の向上と省エネ化に関する国際的研究・教育への貢献」により名誉会員 吉野 博 君の3名に、2020年日本建築学会大賞をお贈り申し上げることを決定した。